

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月1日

事業所名 蒲都市児童発達支援センター

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		スケジュールは写真や絵カードを活用し視覚的に伝え、お子さんによっては、個別のスケジュールを作成しています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		パーティションを利用し、落ち着いて活動に取り組めるようにしています。	新型コロナウイルス感染拡大防止を配慮し、換気・加湿等に十分留意して、活動の場所や机等のレイアウトを考えています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		センター長や管理者と個別面談を実施し、目標設定と振り返りを行っています。業務についての意見等を伝える機会としても活用しています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		利用者アンケートの結果を元に改善しています。また、いつでもご意見をお聞きできるように、玄関に「意見箱」を設置しています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後、外部による第三者評価受審を検討します。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月に1回、担当クラス毎の研修は継続的に実施しています。また、講師を招いた全体での職員研修も実施しました。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		生活チェックシートを利用しながら、年に3~4回面談を実施し、保護者の思いやニーズを丁寧に聞き取り、支援計画に反映しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		事業所独自のアセスメントシートを作成し、利用しています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		日々のカンファレンスで出た意見を元に、プログラムを立案しています。	
	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用しているお子さんの様子に合わせて、内容を変えています。また、カンファレンスの中で、活動の見直しをしています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動の他、自立課題の時間を設け、その子に合った課題に、個人で取り組む時間を作っています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		前日のカンファレンスで翌日の活動内容等の打合せを必ず行っています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日のカンファレンスの中でその日の活動内容や子どもの姿など振り返り、共有しています。また、改善点等についてもその場で検討しています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日、クラス全体と個々の様子を振り返り、共有し、記録しています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		保健師や子育て世代包括支援センター、子育てコンシェルジュ・子育て支援課・福祉課等と連絡を取り合い、連携して支援しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	非該当 医療的ケア児に関する研修を職員が受講しています。	・地域の関係機関連携会議に出席していますが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止でした。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	非該当 医療的ケア児に関する研修を職員が受講しています。	・地域の関係機関連携会議に出席していますが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止でした。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育園や幼稚園等と併用のお子さんについては、保護者の了承を得て情報共有しています。当事業所から就園に移行したお子さんについては、引継書を作成しています。状況に応じて訪問による連携、保育所等訪問支援を行います。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		当事業所を利用し、就学したお子さんについては、引継書を作成しています。状況に応じて訪問による連携、保育所等訪問支援を行います。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		ペアレントトレーニングや職員研修の講師として、蒲郡市民病院の医師等や、他の事業所の方からご指導いただいています。また豊橋あゆみ学園の療育支援事業を受けています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		3歳児以上のお子さんについては、希望に応じて市立保育園等での交流保育に参加することができます。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		職員が参加して、地域の状況や情報の把握に努めています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者に対して外部講師によるペアレントトレーニング研修・遊びと発達に関する研修を実施しました。	ペアレントトレーニング研修は次年度以降も引き続き実施していきます。センター職員が講師を努められるように勉強中です。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		月に一度実施する保護者勉強会の際に、保護者同士が話したり相談しあう時間を設けています。今年度は、コロナ禍でもできるだけ実施できるように、回数を増やして、1回の参加人数を少なくするなどの工夫をしました。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月「クラスたより」を発行し、行事予定や活動内容などを知らせています。	外国籍のお子さんの保護者のために、英語・スペイン語に翻訳した通信を準備しています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		全て施錠できる棚に保管しています。また、パソコン内のデータはパスワードをかけるなど、取扱いには十分注意しています。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		施設が住宅地から離れており、日常的な交流は難しいが、事業所フェア(令和3年度は中止)等の市民向けのイベント等に参加し周知に努めており、希望に応じて見学の受け入れを実施しています。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		毎月訓練を実施し、利用者全員が訓練に参加できるようにし、職員はマニュアルの読み合わせも行っています。各マニュアルを指導訓練室にも配置し、保護者もいつでも見られるようにしています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		地震、火災、津波、不審者などの訓練を定期的に行っています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アセスメント時に、聞き取りを行っています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師による指示書を提出していただいた上で面談を実施し、対応しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		報告書を作成し、改善内容等は全職員に周知しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修に参加した職員から受講した研修内容を全職員に周知しました。今後も多くの職員が研修に参加できるようにしていきます。	次年度からは虐待防止委員会を設置し、更に虐待防止に取り組んでいきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束は行っていません。実施の必要性が生じた場合は事前説明を行い了承を得ると共に、支援計画にも記載していきます。	身体拘束の適正化のための指針を作成し、取り組んでいきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。